

最近の
SCOPE
の動向

専務理事 岩崎 三日子



今年も暑い夏でした。気温の所為だけではなく、3年毎の参議院選挙に加えて、4年毎に開催されるオリンピックの熱戦と、この夏は大きなイベントが重なりました。一方、この暑い夏もSCOPEにおいては「平成28年度事業計画」に基づき、鋭意、業務に取り組んでおります。この4ヶ月間に実施した新たな取り組みとして『港湾における洋上風力発電の導入に向けた取り組み』と『港湾工事におけるi-Constructionへの取り組み』があります。

以下、これらのホットな話題を中心に、最近の動向をご紹介します。

1. 洋上風力発電導入円滑化技術検討会

平成28年7月1日施行の改正港湾法により占用公募制度の運用が開始されるにあたり、5月23日、港湾技術等の関係機関が連携した「洋上風力発電導入円滑化技術研究会」が開催され、港湾管理者及び風力発電事業者への技術的な支援に向け、技術的な課題の検討が進められることとなりました。研究会には（一社）日本建設業連合会、（一社）日本埋立浚渫協会等の会員とオブザーバーとして国交省港湾局及び港湾空港技術研究所等が参加し、様々な技術的課題について検討が進められることとなり、当センターが事務局を務めることとなりました。

2. 研究開発助成成果報告会について

平成27年度に研究を実施した開発助成成果報告会を、6月7日に尚友会館8階会議室にて行いました。20周年記念助成事業は3ヶ年の研究の1年目の成果について報告をいただきました。通常の平成27年度の助成事業は、港湾等の施設の健全度評価に関する研究、大規模災害発生時の対応に関する研究、建設副産物リサイクルに関する研究で、各々2件、計6件の発表が行われました。各発表に対する質疑も活発に行われ、盛況のうちに終えることができました。

3. 第36回公共調達のあり方を考える講演会について

6月29日、京都大学経営管理大学院特命教授 大本俊彦氏を講

師とし「国際建設紛争とその解決」と題して開催しました。海外工事で日本人が陥りやすい「クレーム」に対する認識のズレについては思い当たる部分が多くありました。紛争の解決方法の中で、今回は国際契約における仲裁の意義や役割、その効力と範囲等についても分かりやすい説明がありました。

4. 第34回SCOPE講演会について

第34回SCOPE講演会を8月1日に開催しました。講師としてSCOPENET vol.74で理事長と対談していただいた慶應義塾大学の加藤一誠教授を迎え、「空港政策の現状と今後の方向」と題して、空港貨物や旅客数の推移などのトピック、空港整備の視点、空港運営から空港経営へ、地方空港の現状と課題等幅広い視点からのご講演をいただきました。

5. 港湾施設維持管理実務技術研修について

毎年実施している港湾管理実務者に対する研修を、本年も開催いたします。第1回は9月1日2日の両日、横浜港本牧ふ頭の現場視察を含め実施することといたします。第2回は11月ごろ中部地方での開催を予定しております。近づいてきましたら改めてHP等でご案内いたします。

6. 生産性向上への取り組み

国交省では、本年を「生産性革命元年」と位置づけ、建設現場の生産性向上策として「i-Construction」に取り組んでおります。

港湾工事においても情報技術の進展のなかで、安全で確実な施工管理を行い生産性を高めていくという大きな流れは着実に進展しており、特に、比較的規模の大きい航路浚渫工事に用いられる作業船は、既に全世界的衛星測位システムを装備したものも多く見られ、施工管理にICTを取り入れた施工箇所のビジュアル化も進んでいます。

今後、港湾分野で「i-Construction」に取り組んでいくためには、3Dデータ受け渡しの環境整備など、現場におけるICTの導入・活用に向けた具体的な検討が必要です。

国土交通省港湾局では、6月に「港湾におけるICT導入検討委員会」を設置し、測量から設計、施工、検査に至る一連の建設プロセスへICTを導入し、情報の3D化を実現させるべく、検討を行っています。そのトップバッターとして、今年度は浚渫工を対象に、3Dデータの受け渡し環境の実現に向けて、必要な基準類を整備すべく検討を進めています。このような次世代のための新しい仕組み作りに、港湾関係者の一員としてSCOPEも積極的に協力しております。

CONTENTS

- 1 最近のSCOPEの動向
- 2 「第4回評議員会」「第16回理事会」の開催報告
- 3 第36回公共調達のあり方を考える講演会報告
- 4 中米港湾事情視察に参加して

5 研究開発助成成果報告会

- 6 SCOPE 現場訪問 一国間海上輸送の拠点として機能強化するために
水島港水島玉島地区臨港道路整備事業

8 SCOPEからのお知らせ

「第4回評議員会」「第16回理事会」の開催報告

総務課長 木崎 朋弘

平成28年度最初の評議員会を6月18日（木）当センター 6階の会議室で開催しました。

評議員会は、まず始めに当センターの中尾理事長から挨拶があり、その後来賓としてご出席いただいた国土交通省大臣官房技術参事官の津田様ご挨拶の後、審議が進められました。「平成27年度事業報告・決算報告」他1件が審議され承認されました。内容は以下のとおりです。



【審議事項】

第1議案「平成27年度事業報告及び決算報告について」

- 1) 「平成27年度事業報告」について岩崎専務理事より、説明を行いました。
- 2) 次に、岩本業務執行理事より「平成27年度決算報告」について、以下のとおり説明を行いました。

【平成27年度の決算額】

経常収益額 7,039百万円、経常費用額 6,484百万円、
税引前利益額 555百万円、税引後利益 325百万円

稲村監事より監査結果について、適正に行なわれている旨の報告があり、採決の結果、全員異議がなく原案とおり承認されました。

第2議案「理事の選任について」

第15回理事会において審議され、本評議員会に推薦する再任理事候補者2名について、採決の結果、全員異議がなく原案とおり承認されました。併せて、非改選理事・監事について報告をいたしました。

再任理事、非改選理事・監事は以下のとおりです。

再任理事： 岩崎 三日子、江河 直人

非改選理事：中尾 成邦、岩本 卓、大野 正人、縣 忠明、
大橋 正和、大本 俊彦、松田 英三

非改選監事：稲村 肇、前田 博

【主な報告事項】

第14回理事会及び第15回理事会において承認されました、「平成28年度事業計画及び予算について」及び「公益目的支出計画実施報告書の件について」報告いたしました。

- 1) 「平成28年度事業計画及び予算について」
- 2) 「平成28年度収支予算について」
- 3) 「公益目的支出計画実施報告書の件について」

審議案件・報告案件了後、大野理事より「SCOPEを取巻く最近の状況について評議員の方々に報告を行ない、本評議員会を終了いたしました。

引き続き第16回理事会を開催し、当センター中尾理事長を議長として議事が進められ、次の2議案が審議され承認されました。

第1号議案「専務理事及び業務執行理事の選任の件」

第2号議案「専務理事及び業務執行理事の業務分担に関する件」

第1号議案・第2号議案で承認された、常勤理事の役割分担は以下のとおりです。

【常勤理事及び役割分担】

理事長（代表理事）	中尾 成邦（経営全般）
専務理事（代表理事）	岩崎 三日子（組織運営全般）
業務執行理事	江河 直人（建設マネジメント 研究所、調査部、システム部担当）
業務執行理事	岩本 卓（財務会計担当）
業務執行理事	大野 正人（経営企画部、技術 支援部、災害対策支援、安全推進担当）

最後に、今回の評議員会及び理事会の開催にご協力いただきました関係者の皆様に感謝を申し上げ、報告とさせていただきます。



第36回公共調達のあり方を考える講演会報告

建設マネジメント研究所 副所長 瀬賀 康浩

平成28年6月29日(水)、尚友会館8階会議室において、京都大学特命教授であり、かつ当センターの客員研究員でもある大本俊彦氏により「国際建設紛争とその解決」につきご講演をいただきました。

講演内容の要旨は以下の通りです。



■建設契約の特徴—不確定性

建設契約には以下のような不確定性が挙げられる。

- ・ 工事が大規模
図面・仕様書等の図書が膨大で一貫性に欠け、誤り・不明瞭な内容が避けがたい
- ・ 自然が相手
地下条件・気象・海象etc.の不確定要素が多く含まれる環境への配慮が必要
- ・ 工期が長い
物事が変化する(政治・経済etc.)
地震・異常気象に遭遇する確率が高い
- ・ 関係者が多い
発注者・コントラクター・エンジニア・下請・孫請・材料/機械サプライヤー・保険屋・近隣社会etc…利害関係が絡む
多くの異なる国籍・民族・言語・宗教etc.が入り組む

■建設契約の特徴—契約当事者の認識のずれ

発注者と受注者の間で、契約範囲・工事数量・品質etc.様々な点で認識のずれがあり、それに予期せぬ事象(例えば、自然災害等)が加わり、紛争が生じる。

■リスク分担

- ・ リスクの種類
外生的リスクと内生的リスク
- ・ 契約形態
設計施工分離契約…一般的
設計施工一括契約…機械設備の発注等
EPC/ターンキー契約…コンセプトから請負者が全てを実施する契約。
- ・ 資金のリスク
PFI/BOT/PPP etc.

■建設契約紛争の発生過程

- ・ クレーム←本来、「正当な権利を主張する」という意味
金、時間による解決(時間は結局、お金に換算する形になる)
- ・ クレーム手続き
- ・ クレームから紛争への発展

■建設契約紛争の解決手続き

- ・ 交渉(Negotiation)
- ・ 調停(Mediation)←第三者に助けを借りた交渉

- ・ ディスピュート・ボード(Dispute Board)←紛争裁定委員会
- ・ 仲裁(Arbitration)←裁判所の外における民間裁判。
紛争当事者である両者が決定した第三者に判断させ、その判断は裁判所の判決と同じ効力を持つ。
- ・ 訴訟(Litigation)

■調停

- ・ 第三者の手助けによる和解(Amicable Settlement)
←(両者合意の下で)一方にだけ会って話をする事が許される
Evaluative(評価的な手法)…Win/Loose
Facilitative(促進的な手法)…Win/Win

■仲裁

- ・ 国際契約における仲裁の意義
New York Convention(The Convention on Recognition and Enforcement of Foreign Arbitral Awards)…ニューヨーク条約(外国仲裁判断の承認及び執行に関する条約)。外国で出た仲裁の判断を認め執行するという条約。
- ・ 仲裁事項
仲裁人の数…1～3人
仲裁地…仲裁法は仲裁地に従う
仲裁規則…手続きを定める
機関仲裁(常設の手続き所) or Ad-hoc 仲裁



講演では特に仲裁について多くの解説がなされました。

我々が普段使う「仲裁」という言葉のイメージは、「けんかの仲裁に入る」のように、争いの間に入って両者を和解させる意味を思い浮かべますが、国際的な契約紛争に用いられるこの「仲裁」も、紛争当事者の間に立って両者が納得する解決策を提示し和解させるという意味で同じものです。しかしながら、私人である仲裁人の判断が裁判所の判決と同じ効力を持つという事や、細かい取り決めが国際条約によって決められている事、更にはこの仲裁という手続きが国際建設紛争において非常によく用いられている事など、初めて聞く話で大変興味深いものでした。

建設契約を含め、国際的な取引を行う場合にはトラブルが付きものという風にも聞いたりしますが、そうした場合に備え、トラブル解決のための手段に関する知見を持っておく事は極めて重要な事だと感じております。

中米港湾事情視察に参加して

調査部 上席調査役 永田 享志



写真-1 新パナマ運河（コロン市のガトゥン湖側）

本視察団は（公財）国際港湾協会協力財団の呼びかけにより港湾関係財団等関係者11名で編成され、本年5月10日～20日のスケジュールで、パナマで行われた国際港湾協会（The International Association of Ports and Harbors）（以下、IAPHという）の中間年総会出席・新パナマ運河と国際コンテナターミナル開発の現状視察、トリニダード・トバゴ日本大使館訪問を行ったものです。

これに中尾理事長（（公財）国際港湾協会協力財団会長を兼務）と参加してきましたので概要を報告します。

1. 視察スケジュール

出張期間10日の内、移動がない日は5日だけという遠い所でした。

月 日	内 容
5/10	成田→ヒューストン→パナマシティ
5/11	IAPH技術委員会、ウェルカムディナー（パナマ運河ミラフローレス閘門ビジターセンター）
5/12	IAPH総会、ガラディナー（世界遺産パナマビエホ特設会場）
5/13	現地視察（マンザニーロ国際コンテナターミナル、パナマ運河新閘門）
5/14	パナマシティ→ポートオブスペイン
5/15	トリニダード島視察
5/16	在トリニダード・トバゴ日本大使館表敬訪問
5/17	ポートオブスペイン→ヒューストン→ロスアンゼルス
5/18	ロスアンゼルス→
5/19	早朝に羽田着

2. IAPH中間年総会

IAPHは、世界の港湾の発展と港湾関係者の交流を目指して1955年に設立された世界90カ国の港湾関係者を会員とする唯一の国際NGO団体で東京・港区に本部が置かれています。



写真-2 総会（右から成瀬事務総長、会長、パナマの大臣2名、司会）

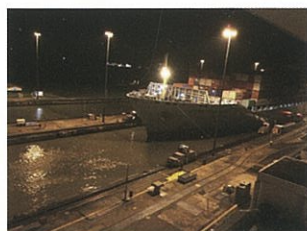


写真-3 既存パナマ運河のコンテナ船航行状況（ミラフローレス閘門）

今回の中間年総会のホストはパナマ海事庁で各国から約200名の参加者があり、港湾保安、港湾開発計画、クルーズ、港湾の財政と経済、港湾環境など9つのテーマについて委員会を設け意見交換と解決策の提案を行っていました。総会においては特にパナマ運河拡張後の世界海上貿易並びに港湾と物流網への影響などといった興味深いテーマについての発表がなされました。

3. 新パナマ運河

新パナマ運河は総事業費52億5千万ドルをかけて2007年9月に着工開始、2016年6月に竣工し、従来の2倍の約6億トン（船舶トン数換算）の航行量を見込んでいます。

掘削土砂・浚渫土砂は約2億 m^3 、コンクリートは約420万 m^3 とのことで、希少動物の保護活動・化石発掘も行われていました。

項 目	既 存	拡張後
全 長	294.1m	366.0m
船 幅	32.3m	49.0m
喫 水	12.0m	15.2m
コンテナ船	約5,000TEU	約13,000TEU
バラ積船	約80,000DWT	約170,000DWT

表-1 新パナマ運河の通航可能船舶諸元

4. トリニダード・トバゴ日本大使館訪問



写真-4 岡田大使（前列左から3人目）と視察団

在トリニダード・トバゴ日本国大使館の岡田光彦大使（前OCDI理事長、元東北地方整備局長）へ表敬訪問しました。大使以下9名の日本人職員と約20名の現地スタッフで周辺国を含め10カ国を管轄し日本外交を展開しているとのことでした。

研究開発助成成果報告会

公益推進課長 入部 忠道

6月7日に「研究開発助成(平成27年度実施)成果報告会」を尚友会館8階会議室で開催しました。

研究成果は、下記の7名の研究者の皆様により発表いただきました。セッション1では20周年記念事業の1年目の報告、セッション2では港湾、海岸及び空港の施設の健全度評価に関するものが2件。セッション3では、大規模災害発生後の対応に関する研究が2件、セッション4では、建設副産物リサイクルに関する研究が2件発表されました。各発表に対して会場からも熱心な質問が多数出され、活発な討議が展開されました。

各報告の内容についてはスコープホームページの「研究開発助成」の「過去の研究開発助成事業実績・成果」にそれぞれの研究成果の「概要」「報告書」「発表資料」を掲載しておりますのでご覧ください。

発表された研究者の皆様、ありがとうございました。本誌をご覧になられた皆様、来年も本報告会にご参加ください。

【セッション1：20周年記念事業】

- ①自律型水中ロボットと海底ステーションによる水中構造物の全自動・長期モニタリングシステム
東京大学生産技術研究所
巻 俊宏 准教授



【セッション2：港湾、海岸及び空港の施設の健全度評価に関する研究】

- ②鋼コンクリート接合部に鋼材腐食が生じた港湾・海岸及び空港施設の健全度評価手法の構築
東北大学大学院 工学研究科
鈴木 基行 教授
(発表：内藤英樹准教授)



- ③港湾におけるコンクリート構造物のかぶり品質の非破壊評価手法の開発
香川高等専門学校
建設環境工学科
林 和彦 准教授

【セッション3：港湾、海岸及び空港における大規模災害発生後の対応に関する研究】

- ④南海トラフの巨大地震等の大規模災害発生後の港湾及び海岸保全施設の速やかな復旧に向けた海上工事施工能力の継続性確保に関する研究
京都大学防災研究所
小野 憲司 教授



- ⑤瀬戸内海周辺海域を対象とした巨大高潮・高波災害評価技術の開発
神戸大学大学院 工学研究科
内山 雄介 教授
(発表：多田拓晃M2)

【セッション4：建設副産物リサイクルに関する研究】



- ⑥築堤を繰り返した土砂処分場の安定性評価の検討
東京工業大学大学院 理工学研究科
北詰 昌樹 教授

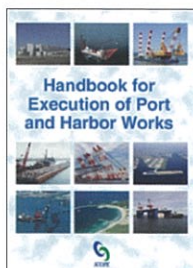
- ⑦防波堤耐津波性強化における浚渫土固化体の利用に関する研究
九州大学大学院 工学研究科
平澤 充成 教授



INFORMATION

◆ Handbook for Execution of Port & Harbor Works

港湾工事施工ハンドブック(英語版)



発行：平成28年3月
著者名：(一財)港湾空港総合技術センター(SCOPE)
定価：3,000円(本体価格)+消費税(A4版/約400頁)

本書は、「初級・中級技術者のための港湾工事施工実務(改訂版)」(平成23年1月・SCOPE発行)及び「港湾工事施工手引書 施工編及び調査編」(平成19年3月・国土交通省港湾局発行)を基に、最新の技術情報も加えて再編集し、英語版の施工ハンドブックとして取りまとめたものです。

—国際海上輸送の拠点として機能強化するために—

水島港水島玉島地区臨港道路整備事業

お話を聞いた人

中国支部水島支所

調査役

佐藤 司 さん

テクニカル・エキスパート

堀之内 章宏 さん

前田 史男 さん

房野 幸弘 さん

People who create port and airport.

水島臨海工業地帯を支える海上輸送拠点

瀬戸大橋の近くに位置する岡山県倉敷市の水島港は、水島臨海工業地帯の玄関口であり、西日本トップの港湾取扱貨物量を誇る工業港です。平成15年に特定重要港湾（平成23年に国際拠点港湾に変更）、平成23年に国際バルク戦略港湾に選定されています。

玉島地区の玉島ハーバーアイランドの岸壁供用に伴い、コンテナ取扱量は増加。平成25年には水深12m耐震強化岸壁が完成しました（本誌14号で現場を取材）。東アジアへの定期船が就航し、大型コンテナ船への対応も可能になり、今後さらに取扱量の増加が期待されています。そこで、国際貿易拠点として機能性を強化するために、臨港道路（橋梁）の整備が行われており、現在最終段階に入っています。



▲ アスファルト舗装前の上部工。ボルトは一つ一つ現場で締め付けられた

People who create port and airport.

整備事業の3つの目的

今回の整備事業には主に3つの課題があります。

1. 水島地区と玉島地区を結ぶアクセス機能の強化

生産拠点である水島地区と物流拠点である玉島地区を往来する多くの車両は、既存の上流側の道路まで迂

[DATA]

水島港水島玉島地区 臨港道路整備事業

整備内容：臨港道路（L=2,564m、片側1車線、幅12.5m、片側歩道）

事業期間：平成22年度～平成28年度

総事業費：356億円



回しなければならないので、輸送コスト増となっているとともに交通渋滞の一因になっています。

2. 自転車、歩行者の安全性・利便性の向上

水島港付近には港湾関連車両など多くの大型車が走っていますが、高梁川に架かる既設橋梁の歩道幅員は狭いため、自転車や歩行者が安全に通行できる道路がありません。

3. 大規模地震発生時への対応

大規模地震時に、玉島地区と水島地区間の緊急物資の輸送経路および住民の避難経路の確保が必要ですが、橋梁が不足しています。

これら3つの課題をクリアするため臨港道路の整備が平成23年度から本格着工し、今年度中には完成します。

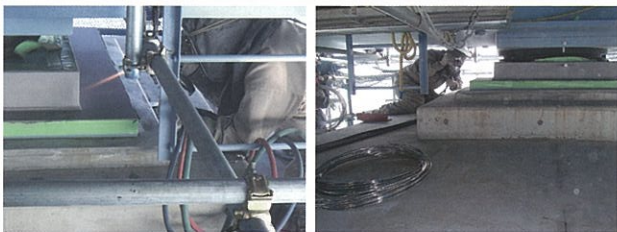
People who create port and airport.

耐用年数100年の品質の高い構造物を目指して

今回、橋梁下部工の基礎工には橋脚・橋台合計44基のうち7割が鋼管矢板井筒基礎工法、3割が鋼管ソイルセメント杭工法、1基のみオープンケーソン工法が採用されました。「鋼管ソイルセメント杭工法は、穴を掘ってセメントを入れてから鋼管杭を設置する方法、オープンケーソン工法は鋼製等の筒を設置し、内部を掘って基礎を作る方法です。平成26年度には全ての橋梁下部工が完成しています」（調査役 佐藤さん）

上部工では、主橋梁は3～7径間連続細幅箱桁で、箱断面の幅を従来箱桁より狭くし、フランジを厚くして箱内構造を簡略化しています。また合成床版を用いた箱桁橋を採用することで、コストダウンかつ工期の短縮化も図っています。

「防錆塗装のための金属溶射は、ワイヤー状になった溶射材（アルミニウムとマグネシウムの合金）を高温で溶かしながら、橋桁表面に吹き付けていきます。通常は工場で行いますが、工場ではできない部分については後から現場で溶射をします。狭い部分はやはり難しいようですね。鋼橋の防錆塗装方法を金属溶射とすることで100年間は防錆塗装の維持管理が不要とされています」（TE 堀之内さん）



▲ 金属溶射の様子（橋梁支承工の現場金属溶射）

「舗装のアスファルトについては、締め固める前に温度の確認や敷き均しの施工状況の確認なども行います」（TE 房野さん）

また、高梁川をまたぐ区間においては、中国電力の送電線があり高さ制限があるため、橋梁上部工鋼桁の架設に台船一括架設工法を採用しています。橋桁の設置作業は終了しており、現在は橋梁付属物等（地覆、防護柵等）の整備が進められています。



▲ 台船一括架設の様子

「橋梁工事は従来使用している港湾工事共通仕様書や基準類などに適用できるものがほとんどないため、土木工事共通仕様書や品質管理基準、出来形管理基準を適用する必要があります。最新のものを使用し、適用の間違い等がないようにすることに注意しています。100年の耐用年数を想定しているので、より品質の高い構造物になるように努力しています」（調査役 佐藤さん）



▲ 整備中の防護柵と転落防止柵

取材時は7月の炎天下で気温・湿度が非常に高く、現場での作業のご苦労や体調管理の需要さを感じました。執務室での適切なエアコン使用や、熱中症対策用品の準備など体調管理にも十分に気を配っている様子が伺えました。

臨海道路の供用予定は平成29年3月。玉島地区と水島地区を結ぶ道路の完成により、コスト削減、移動時間の短縮など物流機能がより一層強化されることが期待されています。

Voice

現場からの声.....

【調査役 佐藤 司さん】

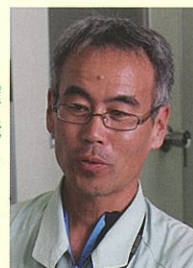
発注者の支援をする裏方の仕事なので、まずは発注者の信頼を得ることが最も大切です。そのためには、現場で造られる構造物が発注図書どおりにできているかどうかを、中立・公正な立場で見落としがないように迅速かつ的確に確認することが重要であると思っています。



【テクニカル・エキスパート

堀之内 章宏さん】

目に見える形でどんどん橋が繋がりと、確実に進んでいることがわかります。発注者、施工業者ともですが、私たち内部でも積極的に情報交換をして、情報を共有しながら進めていきたいと思っています。



【テクニカル・エキスパート

前田 史男さん】

私は平成23年度の臨港道路事業の初年から従事しており、また今年の4月からこちらに来ました。舗装などの仕上げの段階を迎えておりますが、皆さんと協力しながらしっかりと業務にあたりたいと思います。



【テクニカル・エキスパート

房野 幸宏さん】

現場では厳しいこともありますが、やはり造っているものが所定にきちんと完成した時が一番嬉しいですから、それを目指して努力しています。



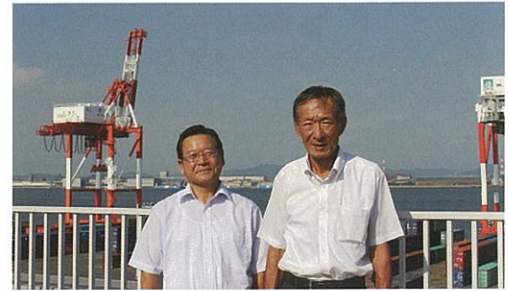
Voice

利用者の声：水島港国際物流センター株式会社
代表取締役副社長 杉 潔 さん
常務取締役 渡辺 正司 さん

「岡山県は、平成16年4月1日構造改革特区法に基づき、国際コンテナターミナルを水島国際物流センター株式会社に貸し付けを開始しました。水島国際物流センター株式会社は、平成26年1月20日に国際拠点港湾としては全国初となる港湾運営会社に指定され、4号埠頭も含め同年4月より管理運営を行っています。平成25年に、国の総合特区に指定されている水島コンビナートで規制緩和により自動車生産工場で生産された車を水島港のふ頭まで回送する際の特定経路に限定して、車両後部へのプレートの取り付けをしなくても回送が可能になり、出荷作業時間短縮やプレート着脱に伴う車体への傷付きが防止できるようになりました。

私が水島港の整備に携わるようになった平成8年当時はコンテナターミナルはまだありませんでした。今はコンテナターミナルが整備され、自分たちの努力で海外からの直接定期航路が17航路就航しています。引き続き、貨物の集荷・創荷に努めていきたいと考えています」（常務取締役 渡辺さん）

「基幹航路以外の中国航路、韓国航路



▲ 左：杉さん、右：渡辺さん

の船が水島港にも入ってきますが、やはり韓国、中国、東南アジアなどの動線は地方港の生き残る道なんです。そのためには県内企業にここを使っていただくことが重要です。神戸港や、近県でいえば広島県の福山に港があるので、米や果物、衣料関係といった県内産業など、そこに流れている部分に関しても、水島港を使ってもらえたらと思います。

臨港道路ができれば渋滞も緩和され時間も短縮できますから、それを生かして、水島の工業地帯の製品は水島港を使っていただくなど、物流センターだけでなく、水島地域、さらに岡山県全体の皆様と協力して水島港を発展させていきたいと考えています」（代表取締役副社長 杉さん）

取材・文：(株)ホライゾン

SCOPEからのお知らせ

港湾施設の点検診断を簡素化できます!!

港湾施設の維持管理支援システム (CASPort) のご紹介

(1) CASPort とは (※ CASPort : Checking Assist System for Port Facilities)

現状の実施可能な目視調査による点検診断から、補修の要否や緊急性の評価、ライフサイクルコストの概算値を示すことで、維持管理実務の効率化と維持管理に対する認識の向上を図ることを目的とした維持管理支援システムです。

(対象施設：係留施設の栈橋、矢板式係船岸、矢板式護岸)

(2) CASPort の特長

- ・ 現場での点検作業や点検結果の整理が行えます。
- ・ 現場で劣化度判定事例や過去の点検結果を参照できるので、熟練度によらず精度の高い判定ができます。
- ・ 点検箇所と写真撮影箇所の紐付けを容易に正確に行えます。
- ・ 一般定期点検診断の結果から性能評価やライフサイクルコスト概算値を容易に求めることができますので、補修の要否や緊急性を認識することができます。

(3) CASPort の構成

CASPortは、施設情報や点検データの設定、ならびに結果のとりまとめを行う「事務所用端末システム」と、施設点検の記録を行う「現場点検用端末システム」で構成されています。

※詳細は SCOPE ホームページをご覧ください。

皆様のご意見ご感想をお待ちしております。



一般財団法人 港湾空港総合技術センター

U R L : <http://www.scopenet.or.jp>

本 部 : 〒100-0013 東京都千代田区霞が関3-3-1 尚友会館3階

代 表 T E L : 03-3503-2081 F A X : 03-5512-7515

※ 本誌は、環境にやさしい大豆インクで印刷しています。